

「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	中津川市	学校名	中津川市立神坂小学校			
校長名	小板 忠昭	対象学年	全校	人数	60人	
活動名	ふるさと学習		時間数	25時間	継続年数	10年
題材	① 自然環境（山野・河川・動物・植物） [ホタルの飼育・森林教室] ② 歴史（出来事・史跡・先人・その他） [神坂・馬籠の史跡] ③ 文化（芸能・芸術・民話・風習・その他） [三味線・陶芸教室] ④ 地場産業（農業・水産業・伝統工芸・その他） [米作り] ⑤ 絆を深め、よりよいふるさとをつくる活動 [ふれあい教室・福祉施設訪問・はなのきフェスタ・神坂学校創立10周年記念事業]					
複数年継続するための工夫改善	・地域人材の活用（ホタルを育てる会、森林管理署、砂防国道事務所、地域の農家、落合・神坂JA、老人クラブ、郷土史家、三味線演奏家、地域の福祉施設等の方々） ・学習の振り返りとして、地域講師への「お礼の手紙」を書く活動や「学習成果発表会に招待する活動」を位置付けることで、互いのつながりを継続させている。					

1 ねらい

- ・神坂の生活や自然、環境、歴史について自ら課題を見つけ、調べたり、体験したり、まとめたりする活動を通して、地域のもつ魅力に気付き、ふるさとである神坂への愛着心を育てる。
- ・地域の高齢者の知恵や技能を児童に伝えていただきながら、楽しくふれあう活動を通して、地域の高齢者の方と児童たちの絆を深め、ふるさと神坂を愛する心を育てる。
- ・地域の方とかかわる行事を通して、地域の方々の「ふるさと、そして神坂地域に生きる子どもたちへの熱い思い」に気付くことで、ふるさと神坂に誇りをもち地域のために活躍しようとする意欲を育てる。

2 活動の概要

(1) 「地域の環境」に関わる活動

【ホタル学習】

・総合的な学習の時間の「ふるさと学習」として、第3学年はホタルの飼育とふるさとの生物環境について、地域の「ホタルを育てる会」の講師から学ぶ学習を行っている。ホタルの飼育を通して、川に住む生き物や自然環境について追究する中で、自然環境に恵まれた神坂地域のよさに気付かせていく。さらに、この第3学年の学習は、第4学年の「ふるさとの自然環境」の探究や第5学年の「ふるさとの農業」、そして第6学年の「ふるさとの歴史」へと発展させている。



ホタル学習の様子

<第3学年児童の感想>

飼育水そうのモーターのことやお世話を教えてくださいまして、ありがとうございました。ホタルは、はじめは1mmぐらいしかなかったのに、1cm2mmぐらいに育っています。はなのきフェスタでホタルクイズをするので、見に来てください。

(2) 「高齢者とのふれあい」活動

【福祉施設訪問】

・毎年、1年に1回高齢者福祉施設（低学年「ゆうらく苑」、中学年「椿苑」、高学年「広済寮」）へ訪問し、お年寄りとおふれ合うことで温かな人とかかわりを大切にできるよりよいふるさとをつくる心を育てている。訪問にあたっては、事前に訪問の意義やお年寄りや障がいのある方とどう接したらよいか、どんな内容がよいかを考え、交流活動の準備をした。実際の交流を通して、思いやりの心を行動に表す言葉かけや接し方を学ぶことができた。



お年寄りとの交流の様子

<第2学年児童の感想>

おばあちゃんに、かたたたきをしました。おばあちゃんは、「きもちいいなあ。こんやはよくねむれるなあ。」とってくれたので、うれしかったです。

【ふれあい教室】

- ・毎年、地域の老人クラブの皆さんから「折り紙」「絵手紙」「なわなひ」「しめ縄づくり」「グランドゴルフ」の5つの教室を開いていただいている。少人数学級であることから児童一人一人に寄り添って教えていただくことができるので、どの児童も「ふるさと先生」が話される言葉一つ一つに素直に耳を傾け、知恵と技を学ぶことができた。第1、2学年が生活科で育てたさつまいもを焼き芋にして食べていただいたり、第5、6学年がお礼に三味線演奏を披露したり、学んだことを手紙に書いたりして、感謝の気持ちを伝えた。こうした学習の成果を見ていただくことで、高齢者の皆さんとの絆を深めることができた。

<第4学年児童の感想>

しめなわがざりをふるさと先生に教えてもらい、マスターできました。最初は分からなかったけど、いろいろコツを教えてもらい7本作れました。楽しかったです。ぼくは、家にかざって家族に見せようと思いました。

(3) 「地域の歴史」と関わる行事

【神坂学校創立10周年記念事業】

- ・越県合併による園及び学校の統合から10年目にあたり、11月、神坂学校創立10周年記念式典を開催した。この取組は、未来に向けて羽ばたく児童たちの成長と活躍を願って、2年前から神坂学校PTA役員及び歴代PTA会長とともに実行委員会を立ち上げ進めてきた事業である。これまで、多くの地域の方々が、心と力を合わせてつくられてきた神坂学校としての歴史とその願いを、地域、保護者、そして園児・児童・生徒が、一堂に会して確かめ合うことができた。

<児童の様子>

- ・式典のアトラクションでは、三味線演奏と校歌合唱を発表した。三味線演奏は、平成14年以来、神坂小学校の特色ある活動として、現在では全校児童で取り組んでいる。児童は、地域の方の願いに応えるべく、これまでの学習の成果を堂々と発表し、参加された方に感動を与えた。さらに校歌合唱では、合併当時の人々の心寂しい気持ちや一つになれた喜びを思い起こさせる美しい歌声となり、参加者から高い評価を受けることができた。

3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子

- ・「老人福祉施設訪問」や「ふれあい教室」では、高齢者と交流することを通して、相手に対して思いやりの気持ちをもって行動できる力を培う場とし、毎年継続して取り組むことでつながりを深めている。また、児童会の「空き缶回収運動」で得た収益で、毎年、車いすなどを寄贈している。
- ・毎年、2月には、総合的な学習の時間の学習成果のまとめを「はなのきフェスタ」として地域の方や保護者へ伝える行事を行っている。「総合的な学習の時間のふるさと学習」により、直接話を聞いたり、一緒に体験したりして学んだこと、そこで感じた思いを、クイズにしたり、実演したりして発表する。発表に対して、感想を直接聞くことにより、学習を確かなものとしたり、ものの見方や考え方をさらに深めたりする機会としている。

4 活動による児童の変容（伸長・成長等）

- ・地域の方々と場と活動を変えながら、年間を通してかかわることで、郷土に対してあこがれや親しみをもつことができた。登下校時や地域の行事等で積極的に自分から声をかける姿が多く見られるようになり、ふるさとを大切に作る気持ちが育ってきている。
- ・地域の高齢者との交流は、相手の立場に立った言葉かけや行動の在り方を考えたり、実際に自分で考えた行動をしたりする力を育てることにつながった。
- ・少人数の学校であるがゆえ、人とのかわり合いに弱さがあった児童が、人前で話をしたり、三味線演奏を堂々と発表したりできるようになってきている。また、三味線演奏の披露を通して、活動のよさを地域の方から認められることにより、地域で自信をもって生きる姿勢ができつつある。

<第5学年児童の感想>

福祉施設では、一緒にぬり絵をやっていると、むずかしそうにやっていたので細かなところをぬってさしあげました。渡したら「ありがとう。」と言ってもらえて、とてもうれしかったです。帰る時に、玄関まで見送っていただき、「また来てね。」と言ってもらえました。喜んでもらったなと思います。うれしかったです。近くなので、また行きたいなと思いました。